

後天性血友病 A の原因として今までに報告のないベンラリズマブが推定された 1 例

◎鶴田 志穂¹⁾、赤星 栄基¹⁾、吉田 萌子¹⁾、井手 理恵¹⁾、北村 浩晃¹⁾
唐津赤十字病院¹⁾

【はじめに】後天性血友病 A とは、後天性に第 VIII 因子に対するインヒビターが出現し、その結果、第 VIII 因子活性が著しく低下して、出血症状を呈する疾患である。今回、後天性血友病 A の原因として今までに報告のない、気管支喘息に対する薬剤であるベンラリズマブ（抗 IL-5 受容体 α モノクロナール抗体）が原因と推定された 1 例を経験したので報告する。

【症例】70 代女性。気管支喘息で当院呼吸器内科にてフォロー中。8 か月前よりベンラリズマブによる治療を開始していた。肉眼的血尿が出現し、前医受診。同日の検査で APTT 延長を認め、精査加療目的に当院血液内科へ転院となった。

【検査所見】血算：WBC $4.9 \times 10^3/\mu\text{L}$ 、RBC $3.89 \times 10^6/\mu\text{L}$ 、Hb 11.3g/dL、PLT $399 \times 10^3/\mu\text{L}$ 、凝固：PT 13.0sec、PT-INR 1.12、APTT 79.4sec、Fbg 876mg/dL、FDP $3.7\mu\text{g/mL}$ 、DD $1.1\mu\text{g/mL}$ 、クロスミキシング試験にて即時反応は下に凸、遅延反応は上に凸であり、インヒビターパターンであると考えられた。抗カルジオリピン β 2GP I 抗体 1.2 以下 U/mL、ループスア

ンチコアグラント 1.03、第 VIII 因子活性 1.0%、第 IX 因子活性 60.2%、第 VIII 因子インヒビター 2.00 ベセスダ U/mL であった。以上の結果より、後天性血友病 A と診断された。

【考察】「IL-5 濃度の上昇により B 細胞が活性化し、第 VIII 因子インヒビターの合成が促進される」、 「ベンラリズマブ治療により、血中 IL-5 濃度が上昇する」という報告がある。本症例では、IL-5 濃度がベンラリズマブ中止前は 2.9pg/mL 、中止 1 カ月後は 1.6pg/mL 、中止 3 カ月後は 0.9pg/mL であった。中止前が 1 番高く、中止後は経時的に減少していた。以上の報告と検査結果より、ベンラリズマブ治療による血中 IL-5 濃度上昇が後天性血友病 A の原因の 1 つであると推測した。

【まとめ】今回 IL-5 濃度の測定まで実施でき、後天性血友病 A の原因として、今までに報告されていないベンラリズマブが推測された貴重な症例であった。

連絡先：0955-72-5111 (内線 2500)